

英語科学習指導案

日時 平成26年度7月4日(金) 5校時

指導場所 2年2組 教室

指導者 野沢 喜満子

1 単元名 “Homestay in the United States”

(NEW HORIZON English Course 2 - Unit 4-)

2 単元について

(1) 単元観

中学の英語学習を始めて1年が過ぎ、語彙も少しずつ増えてきた。今年度に入り、be動詞の過去形や、過去進行形、未来表現 (be going to)、不定詞 (副詞的、名詞的、形容詞的用法)などを学習し、表現の幅がより広がってきている。

Unit 4では、「ホームステイ」が話題として取り上げられている。Starting Outでは、ホームステイのガイドブックの中で「have to」「don't have to」が、Dialogでは、滞在先のホストマザーとさくらの会話の中で「will」が、Reading for communicationでは、生徒と教員の間、ホームステイに関する相談や助言を通して、「must」「must not」が導入されている。

アメリカでのホームステイについて学習することにより、国にはその国独自の文化や習慣があることを知り、改めて、日本の文化・習慣について、あるいはその違いについて考えたり、異文化交流の際などに留意する点についても知ることにも出来、世界の様々な側面について考えるきっかけにもなる単元である。

助動詞に関しては、1年次に「can」を学習している。本単元では、実際のコミュニケーションでも使用頻度の高い、「have to」「don't have to」「will」「must」を学習し、より幅の広い表現ができる様になると考えている。

(2) 生徒観

① 生徒の実態

男子19名、女子20名、計39名の、明るく元気なクラスである。発言も多く、お互いに良い刺激を与え合える素直な生徒の多いクラスである。また、だいたいに習う未習の文法の質問をしてくるなど、英語に関する関心・意欲は高いと感じる。ワークブックなども、直接答えを書き込まず、1度目はノートに書くなど、2度3度と繰り返しやるという生徒もいる。しかし、やはり英語を苦手としている生徒もいる。「単語は練習して覚えられるが、文を書くのが苦手」、「語順がわからない」という声が少なくない。また、「3単現のs」を理解していない、ローマ字がしっかり書けないという生徒もいるなど、英語学力の格差は大きい。

技能別に考えると、やはり、小学生での外国語の授業の影響もあり、比較的「聞く」「話す」については、得意とする生徒が少しずつではあるが年々増えている感がある。

リスニングに関しては、教科書レベルの内容やスピードに限定されるが、問いに正答するだけでなく、他の情報も聞き取ることを求めると、できるだけたくさんの情報や表現を聞き取ろうと集中し、理解する生徒も多い。

また話す態度も、堂々として自然に話すことができる生徒も増えてきた様になっている。しかし、話す内容について、暗記したスピーチや、「Yes, No」「疑問詞」の質問などに対する答えの決まったもの、もしくは絵や文を見さえすれば答えられるようなものなどは、自信を持って話すことができるが、一方、自分から質問を作る課題や、相手の言葉にその場で反応しなければならないようなものについては、多くの生徒が苦手としている。

「読む」「書く」については、前述の2技能に比べ、より苦手意識を持っている生徒が多い。「読むこと」に関しては、単なる読み間違いではなく、たとえ一文字一文字をゆっくり見たとしても、単語が読めないという生徒がいる。つまり、文字と音とが知識として結びついていない生徒がこの時点でもまだいるということである。今後のためにも、そういう生徒には長期休みを利用してもう一度、音と文字からやり直しをさせたいと考えている。「単語間が繋がると音が変わる場合もある」、「音が消える場合もある」などのルールも、単語が読める前提の話なので、まずはその部分を徹底して訓練しなければと思っている。一方、読みを得意とする生徒は、積極的に発言し益々自信を持つようになる。「r」「v」「th」など、日本語にない音もきれいに発音でき、音読することを楽しんでいる生徒もいる。このように英語学力格差は大きいですが、正しく発音できる生徒が一人でも近くにいることは、周りの生徒にとっても良いことである。お互いのレベルアップのためにも、しっかりと音読の時間を確保していきたい。

「書く」ことについてはモデル文の提示がある場合は、それにそって文章の形の真似をしながらある程度書くことができるが、提示がない場合は、文章を作ることに「苦手意識」が先行し、考えこんでしまう生徒もいる。また、辞書を使って未習の単語や文をそのまま書いたり、同じ言葉を繰り返し使い、ただ量をたくさん書いて満足する生徒もいるが、それよりも、短い文、シンプルな文でもよいので、既習の単語・表現を使って「自分の言葉で」書くことに価値を感じられる生徒が増えるように、そのような機会を多く作っていきたい。

学年が変わり、気持ちを新たにする良い機会とし、苦手な英語を克服しようとしている生徒も見られる。昼休みや放課後などに、積極的に質問にくる生徒もいるので、力を伸ばすことができるように極力支援しなければと思っている。

以上のような生徒の実態をふまえて、以下のような生徒を育てていきたい。

② 目指す生徒像

- ・新しい文法の習得を、新たな知識の獲得と喜び、豊かな自己表現につなげることのできる生徒。
- ・表面的な訳をして満足するのではなく、行間を読み、背景を想像し、筆者や話者の意図を積極的に理解しようと努力する生徒。
- ・文章構成を意識し、既習の単語や表現を最大限に使い、自分の言葉で発信しようと努力する生徒。

(3) 指導観

生徒を指導するにあたり、普段心がけている点は次の3点である。

I 普段心がけている点

①教材の工夫

解りやすさを第一優先にし、当該学習文法に的を絞った教材研究を心がけている。

まずは、大切なことがより明確になるように、シンプルな例文を用いようと思っている。またなるべく、例えば教室にあるもの、共通して目に見えるもの、家庭や学校での実生活の場面や言葉などを文章の中に多く取り入れ、自分と関係のない・非現実的な話やテーマではなく、より身近なことに感じてもらう工夫をしたいと思っている。また、語彙や知識が豊富な生徒の中でも、英文から日本文、日本文から英文へという「言語間の翻訳」は問題なくでき、発問に対しても正答ができるのに、「自分で質問をつくる」、「自由に文章を書く」、「要約をする」といった課題には手が止まってしまう生徒がいる。与えられた枠を離れて、自由に思いのままにある程度文章を作成することは実際のコミュニケーションには必要とされる力であるので、そのような苦手部分を改善できるような教材研究をしていきたい。また、スローラーナーの支援のための効果的な指導形態（ペア学習・グループ学習）の工夫を行っていきたい。また、机上の学習を中心にしながらも、インプットのみには偏らない様、ワークシートの活用や、友人との対話活動など、アウトプットの時間をしっかり確保したいと思っている。全体として、教師主体の講義型の授業ではなく、実技教科の様な、生徒が主体になるような授業を目指したいと思っている。加えて、特に今年度の研究として、「深く考え」させるための有効な教材や指導法を探求していかねばならないと思っている。

②4技能のバランスを考えた指導

「聞く」「読む」「話す」「書く」の力がバランス良く付くように、普段から4技能の偏りが無い指導になるように心がけている。時代によって重視される技能や指導方法に流行りのようなものがあるが、それも視野に入れながらも、やはり、すべての技能を意識して、指導にあたりたい。ただ、すべてをバランスよく、平均的に教えること自体が大事なのではなく、どの力も、大きな差が結果としてつかないように、「書く」ことなど、各個人の苦手な部分を把握し、重点的に丁寧に、生徒の実態に合わせた指導をしていきたい。また、「第5番目の技能」として言われている「コミュニケーション能力、あるいはコミュニケーション・ストラテジー能力」（一方的に話すのではなく、相手の言葉に返答する能力、会話を続ける能力）も、これからは特に必要とされていく時代になっていくので、これから少しずつでも場面を作り、生徒の力を伸ばしていきたいと考えている。

③まとめの活動

ノートをきれいに書くことを奨励している。「ノートをきれいに採れるということ＝頭の中もきれいに整理されていることの証明にもなる」と伝え、模範となるようなノートは回覧させるようにしている。今年度に入り始めたばかりだが、仲間達の模範的なノートを見ることで、良い刺激を受け、お互いに目に見える形で向上し合い、他の取り組みへの意識も自然と他者との関係の中で高くなることを目指す。

また新しい文法を習うごとに、振り返りシートに自分の言葉で記録をさせている。何を学んだのかを可視化するためでもある。実際に、その場その場での理解度は高く、自分でも理解したと安心してしまっている生徒が多い。しかし、ただ理解して終わりなのでは決してなく、「何」が新しい知識として自分の中の「引き出し」に加わったのかを認め、使いたい時に正しく引き出せ、使いこなせるところまで到達しているかを意識させることが大事である。そのためには、自分の引き出しを普段

から整頓させ、新しいものが入ってきやすい状態にしておくことが重要である。そして、一番大事なのが、新しい知識が入ってくる度に、無意識にしまい込むのではなく、整理し、あとで出しやすいように記憶に留めることである。各文法を学ぶ度に、その都度、学びを自分なりに整理し、再度考える機会を持ち、文字に残すことで学習事項の定着を図りたいと考えている。

3 全体研究との関わり

本年度本校研究主題「深く考える」授業とは、生徒が「自分の思いや意図を伝えるために、身につけた知識や技能を総動員し、思考力・判断力・表現力等を発揮するような」授業を指す。そのために、自分の思いや意図を表現して伝える活動や他者との交流を通してお互いの考えなどを伝え合う活動、さらには、自らの考えを広めたり、深めたりする活動を行うことによって生徒は具体的な課題解決において「深く考える」ようになる（全体研究総論より）。

英語を学び始めてまだ日も浅い生徒達に「深く考える」ことをさせるのは決して容易なことではないが、まずは生徒に深く考えることの価値や意味を自覚させることを目指し、知識を定着させるために、ライティング、リスニング、リーディング、スピーキングのすべてにおいて、活動の目標や到達度との関係で現在の自分の状況や目指すべき方向を考えさせる場面をできるだけ多く作り、発問の工夫をしたり、活動や自分や友人の発表などを通して、自分の考えを少しでも広めたり、深めたりさせなければと思っている。

4 単元の指導目標

- 「have to」「don't have to」や「will」「must」を用いた文の、形、意味、用法を理解することができる。
- 「have to」「don't have to」や「will」「must」を用いた文の、形、意味、用法を理解し、口頭や文字で表現することができる。
- ホームステイについての英文を読み、海外での生活に関心をよせ、同時に日本の文化や習慣にも目を向け、違いについて考えることができる。

5 単元の評価基準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
①「have to」「don't have to」や「will」「must」の文を用いたコミュニケーション活動に積極的に取り組むことができる。 ②ホームステイについての文を読み、日米の文化・習慣の違いに関心を持つことができる。	「have to」「don't have to」「will」「must」の文を用いて文をつくったり、問答したりすることができる。	「have to」「don't have to」「will」「must」を含む英文を読む、聞くなどして、それらを理解することができる。	ホームステイについての文を読み、アメリカでの生活に関心を持つとともに、日米の習慣や考え方の違いについて、考えることができる。

各観点の名称については、

- ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 : ア
 - ・外国語表現の能力 : イ
 - ・外国語理解の能力 : ウ
 - ・言語や文化についての知識・理解 : エ
- とする。

6 単元の指導と評価計画（全6時間）

時間	段階	目標	評価基準
1	Starting Out	○「ホームステイのガイドブック」を読み、ホームステイのあり方と一般的な心構えについて知る。 ○「have to」「don't have to」を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	ア ウ
2 本時	Starting Out	○「have to」「don't have to」を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる	イ
3	Dialog	○「will」を用いた文の形・意味・用法を理解しそれを用いて簡単な対話ができる。	イ ウ
4	Reading for Communication	○「must」を用いた文の形・意味・用法を理解し表現できる。 ○相談・助言の形の英文を読み、内容理解ができる。 ○自分の意思を相手に率直かつ丁寧に伝えることの大切さを知る。	ウ エ
5	Reading for Communication	○「must not」を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○苦情・助言の形の英文を読み、内容理解ができる。 ○ホストファミリーの一員であることとはどういうことかを知り、問題解決の糸口を知ることができる。	ウ エ
6	Review	○標識の意味に合わせた文を完成することができる。 ○アメリカの生活習慣と対比させながら日本の生活習慣を英語で表現することができる。	イ エ

7 本時の授業

(1) 日時 平成26年 7月4日(金) 14:10~15:00

(2) 場所 山梨大学教育人間科学部附属学校 2年2組教室

(3) 題材名 “Homestay in the United States”

(4) 本時の目標

- 「have to」「don't have to」を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- 活動を通し、自分の考えや仲間の考えを生かしながら、クイズを校正することができる。

(5) 生徒が「深く考える」ための手だて

- ・ 職業やキャラクターをあてる英文のクイズを聞き、何を表しているか考える。
- ・ 他班の発表を聞くことで、内容的、文法的に良い点、改善点を考える。
出題の順番についてもクイズとして適当か考える。
- ・ 発表後、気づいたことを共有し合い、今後に活かすために、再度書く時間をとる。

(6) 展開

Procedure & Time	Teacher's Activity & Help	Student's Activity	Remarks
Greeting Warm up (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で挨拶を交わす。 ・ 簡単なQ&Aで英語の授業の雰囲気づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で挨拶をする。 ・ Q&Aに答え、授業を始める心構えをつくる。 	顔を上げて大きな声で行う。
Basic Skill Training (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習させる。 ビンゴで単語の復習 PCを使って文法の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習する。 ビンゴで単語の復習 PCを使って文法の復習 	Activity Iで使える表現となる。

<p>Activity (35)</p>	<p>○3 (4) Hints Quizをつくらう！！ ～職業・キャラクターVersion～</p> <p>①活動について説明する。</p> <p>(Quiz;前時までの活動)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ(4人)毎に、職業・キャラクターのうち1つを選ぶ。 ・選んだその職業・キャラクターについて、しなければならない行動(動作)を英語で表現する。 ・4人、それぞれが作った文を持ち寄り、その中から3つを選び3 (4) Hints Quiz とする。) </div> <p>②ワークシート(A)を配付する。</p> <p>③皆の前でグループ毎に発表し、何の職業(キャラクター)かあてさせる。</p> <p>発表者以外の班(聞き手)に、職業をあてさせる。</p> <p>④ワークシート(B)を配付する。</p> <p>⑤他班の発表を聞き、良かった点、改善点を考え、書かせる。</p> <p>⑥考えたことを生かし、再度クイズ作りをさせる。</p>	<p>①本日の活動について理解する。クイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表するときの役割の確認 ・発表する文の順序の確認 ・発表する文の練習等 <p>②ワークシート(A)に取り組む。</p> <p>③皆の前でグループ毎に発表し、何の職業(キャラクター)かあてる。発表者以外の班(聞き手)は、発表を聞き、あてる。</p> <p>④ワークシート(B)に取り組む。</p> <p>⑤他班の発表を聞き、良かった点、改善点を考え、書く。</p> <p>⑥考えたことを生かし、再度クイズ作りをする。</p>	<p>この後の活動の方法を提示することになる。</p> <p>ワークシート</p> <p>(A)ークイズに答えよう</p> <p>(B)ー友達の作ったクイズについて考えよう</p> <p>☆よりよい出題・発表について考える。</p> <p>・クイズをもとに深く考える。</p>
<p>Consolidation & Greeting (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して考えたこと、感じたこと、思ったことをワークシートにまとめさせる。 ・活動の様子を振り返り、成果と課題をフィードバックする。 ・英語であいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して気づいたことをワークシートにまとめる。 ・教師のフィードバックを聞き、各自の活動を振り返らせる。 ・英語であいさつをする。 	<p>本時の気づきが次時に活かされるような、投げかけを心がける。</p>